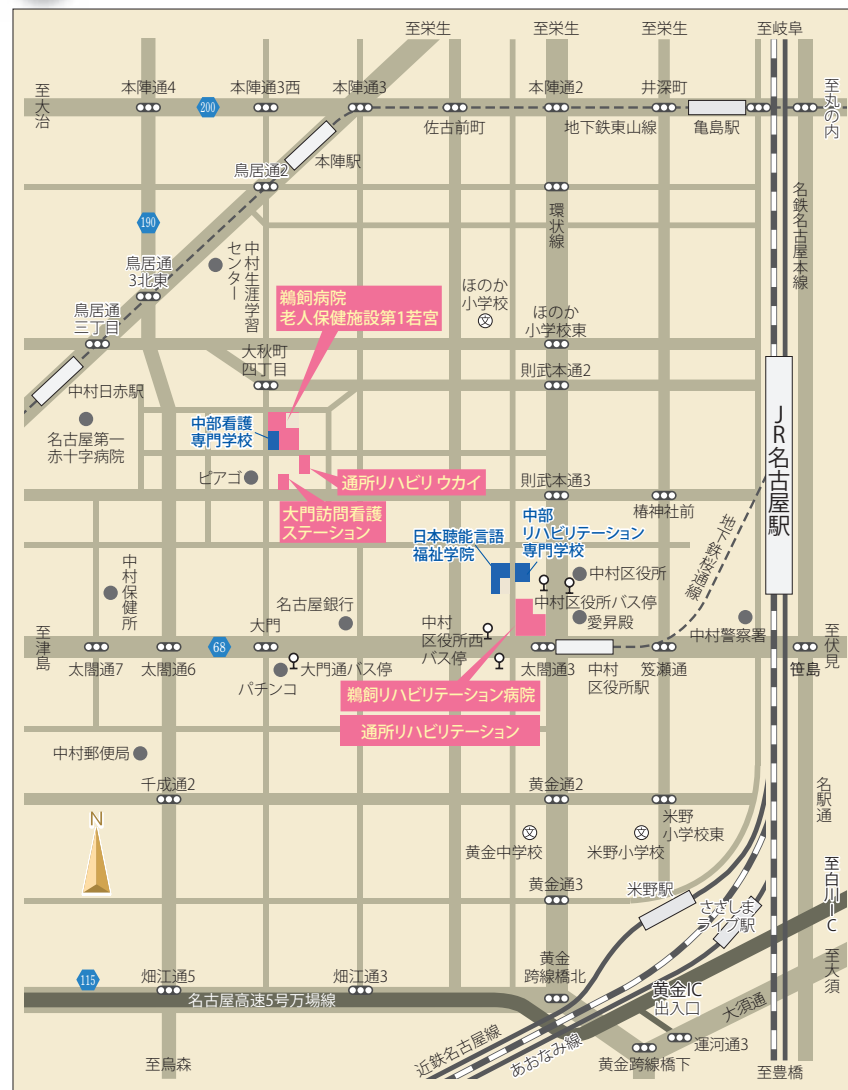


ご案内図



交通アクセスのご案内

- 地下鉄／桜通線「中村区役所」①出口より……………徒歩約 1 分
- 市バス・名鉄バス／「中村区役所」下車……………徒歩約 1 分
- JR名古屋駅太閤通口より……………車で約 5 分
- 名古屋高速道路「黄金」ICより北へ……………車で約 5 分



医療法人 珪山会 鵜飼リハビリテーション病院

〒453-0811 名古屋市中村区太閤通 4-1
TEL 052-461-3132 FAX 052-461-3231
Eメール mail@kzan.jp ホームページ <http://www.ukaireha.kzan.jp/>

時代のニーズに応える 珪山会グループ

鵜飼 病院
TEL 052-461-3131
FAX 052-461-3136
名古屋市中村区寿町30

老人保健施設 第1若宮
TEL 052-461-3175
FAX 052-461-3136
名古屋市中村区寿町30

鵜飼リハビリテーション病院
TEL 052-461-3132
FAX 052-461-3231
名古屋市中村区太閤通 4-1

通所リハビリテーション
TEL 052-461-3237
FAX 052-461-3238
名古屋市中村区太閤通 4-1

通所リハビリ ウカイ
TEL 052-461-9195
FAX 052-461-3107
名古屋市中村区寿町 6-1

大門訪問看護ステーション
TEL 052-471-2533
FAX 052-485-9702
名古屋市中村区大門町30

中部リハビリテーション専門学校
TEL 052-461-1677
FAX 052-471-2333
名古屋市中村区若宮町 2-2
<http://www.chureha.kzan.jp/>

中部看護専門学校
TEL 052-461-3133
FAX 052-483-0873
名古屋市中村区寿町29
<http://kango.kzan.jp/>

日本聴能言語福祉学院
TEL 052-482-8788
FAX 052-471-8703
名古屋市中村区若宮町 2-14
<http://ncg.kzan.jp/>

鵜飼リハビリテーション病院 ハートフル情報誌

ReHappy!

リハッピー

Vol.69

発行人／鵜飼泰光
発行／鵜飼リハビリテーション病院広報委員会
名古屋市中村区太閤通 4-1
<http://www.ukaireha.kzan.jp/>
編集／鵜飼リハビリテーション病院広報委員会
編集グループ
編集協力／プロジェクトリンク事務局
発行／令和元年10月1日

＜特集＞

一歩先を行くチーム医療で、
リハビリテーションの質を高める。



一歩先を行くチーム医療で、 リハビリテーションの質を高める。

ReHappy!では62号以降、
リハビリテーション医療に関わる多職種の専門性に
スポットを当てて紹介してきた。
しかし当然ながら、リハビリテーション医療は、
個々のエキスパート単独で完結できるものではない。
それぞれの高度な専門性をいかに繋ぎ、
患者さんの生活復帰を実現しているのか。
今号では、改めて鵜飼リハビリテーション病院の
チームアプローチを追った。



4階病棟リハ主任 粕谷昌範

多職種が別々の部屋ではなく、 同じ空間に一緒にいる強み。

鵜飼リハビリテーション病院の各病棟には、毎朝、さまざまな専門職が出勤してくる。看護師や介護士はもちろん、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、医療ソーシャルワーカー（MSW）、そして、最近になって、管理栄

養士も病棟配属になった。「セラピストはリハビリ室へ、管理栄養士は栄養室へ出勤するのが一般的だと思いますが、当院では毎朝、多職種が病棟に出勤してきて、全員でミーティングを行います。休憩室もみんなで共有しているので、いつも一緒にいる感じですね。これは、当院のチーム医療の大きな特長だと思います」。そう話すのは、4階病棟リハ主任の粕谷昌範である。同じ空間に多



職種がいることによって、どんなメリットが生まれるのだろうか。「同じ場所にいるので、違う職種の仕事ぶりを知ることができます。看護師や管理栄養士、医療ソーシャルワーカーがどんな視点で患者さんを評価しているのか。それを理解した上で、ミーティングするので、より深い意見交換ができます」と、粕谷は説明する。

それに加えて、5階病棟師長の小松久代は「他職種への理解が深まることにより、職種間の壁もなくなりました。たとえば、セラピストと看護師は一般的にぶつかることの多い間柄ですが、同じ病棟配



5階病棟師長 小松久代

属になり、互いに認め合えるようになったと思います」と話す。さらに、多職種連携が深まるほど、自分の専門性への自覚も強まるという。「私たち看護師も、どんな専門性を発揮してチーム医療に貢献しているのか、いつも意識しています。他の職種も同様に、それぞれが切磋琢磨して専門性を磨いていると思います」。



という一般的な医師を中心に記入するイメージがあるが、同院の電子カルテは、患者さんの病状変化やADL（日常生活動作）の改善について、職種を問わず時系列でどんどん記入していくスタイルだ。「誰が書いたのかは、あまり重要ではないですね。それよりも、患者さんの今の状態や経過について、あらゆる角度から評価し、みんなで情報共有することを重視しています」（倉地医師）。

そんなチーム医療のなかで、医師はリーダー役を担うが、「緊急時以外はトップダウンの指示は出しません」と倉地医師は言う。「たとえば、転倒対策などについても、個々の患者さんの病状を踏まえ、みんなで考え、答えを出してもらいます。そうすることで、患者さんにとってベストな方法が見つかることが多いですし、彼ら自身の成長にも繋がりますから」。その上で、倉地医師はスタッフの考えを集約し、総合的な治療計画を立案していくのだ。

チーム医療を支える フラットな協働環境。

同院ではまた、ユニフォームも全職種が同じものを着ている。医師も看護師もセラピストも、一目見ただけでは区別がつかない。その理由について、副院長の倉地英志医師は「リハビリテーション医療においては、医師をはじめ『ある職種だけが特別』ということはありません。患者さんの生活復帰に向けて、すべての職種が対等な立場で協働する必要があるのです。ユニフォームはその表れと言えるのではないのでしょうか」とほほえむ。

フラットな多職種連携は、電子カルテにも見て取れる。カルテ



副院長 倉地英志

毎年少しずつ改革を続け、 今日のチーム医療を構築してきた。

医師、セラピスト、看護師、管理栄養士、医療ソーシャルワーカーがフラットな関係で繋がり、患者さんの生活再建に向けて一致団結して取り組む。その緊密なチーム医療の形は、一朝一夕ででき上がったものではない。

そもそも鵜飼病院から回復期リハビリテーション病棟が独立し、鵜飼リハビリテーション病院が誕生したのは、平成12年。それ以前から、鵜飼泰光院長は新病院で最先端のリハビリテーション医療を提供しようと考え、その分野の草分け的存在だった石川 誠医師（医療法人社団輝生会会長）の教えを請うていた。開院後もしばらくは、毎年、職員を石川医師が率いる病院へ派遣し、その高度な取り組みを学ばせていた。その一人、医療連携部部長の河合秀樹は当時を振り返る。「石川先生の病院で、全職種が連携して患者さんの自立を支援する姿を見て、私たちは衝撃を受けました。その先進的なリハビリ医療を目標に、当院にふさわしいチームアプローチを模索し、



医療連携部部長 河合秀樹

毎年少しずつ改革を進めてきたのです。

たとえば、患者さんをチームで支えるための「サブリーダー&サポーター制度」もその一つだろう。違う職種同士がお互いに理解を深め合いながら、患者

さんの自立を支援し

ていく仕組みを構築していったのだ(詳細は5ページ参照)。また、現場の問題意識から、ワーキンググループ(特定の問題解決や計画の推進のため設けられた作業

部会)も、次々と立ち

上げていった。看護

副部長の猪川まゆみ

は次のように話す。

「最初に立ち上げたの

は、<できるADL>

を<しているADL>

にしようというワーキ

ンググループでした。

たとえば、リハ室で起

き上げられるように

なっ

ても、病室では看護師が全介助してしまうようでは意味

がありませんから。リハ室でできるADLと、病棟で日常

的にしているADLの差を縮めようと、セラピストと看護

師と一緒に取り組みました」。

こうした現場のムーブメントが少しずつ組織を動かし、

今日のチーム医療体制ができてきたのだ。



看護副部長 猪川まゆみ

患者さん第一主義を貫き、チーム医療を進化させていく。

但し、ここで理想のチーム医療が完成したわけではない。「常に向上する意識を持って、チーム医療をさらに進化させたい」と、猪川は言う。

「進化の指標となるのは、鵜飼院長が定める年度方針です。その明確なビジョンに沿って、常時いくつかの取り組みが動いています。たとえば、今年度の方針には、<認知症に対する対応力強化>と<5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)活動の取り組み>があります。現在、それぞれに対する多職種ワーキンググループを作って、検討・改善を図っているところです。白熱した議論になることもあります。皆で、去年より今年、さらに来年へと、一歩ずつ進んでいきたいと思います」(猪川)。

河合も、同院の変化を次のように語る。「長年の組織改革を通じて、全員が同じ方向に向かって、高みをめざしていく風土が根づいてきたと感じています。そして、その拠り所は、法人の理念である<患者さん第一主義>だと思います」。「<患者さん第一主義>とは、どういう概念だろうか。『いろいろなとらえ方がありますが、私は、患者さんを第一に考えて、患者さんにチームの一員・中心になっていただくことだと思います。患者さんご家族もチームに参加し、退院後の生活や生きがいをしっかり思い描く。その思いを私たちが受け止め、どうすればよいのか一緒に考え、リハビリテーションを進めていくことが大切なのです」(河合)。冒頭に登場した粕谷、小松も同意見だ。「回復期リハビリテーションでは、患者さんを少しでも望む生活に近づけることが大切です。私たちは、患者さんやご家族を巻き込みながら、当事者意識を持ってリハビリテーションを行うよう心がけています。そのため、弱気になっている患者さんなどに対しては、時には厳しく接することもありますね」。

チーム医療は、患者さんが参加してこそ成り立つもの。患者さんとともに、患者さんのために。同院のスタッフは<患者さん第一主義>を貫き、チーム医療をさらに進化させていこうとしている。



For the Best Rehabilitation

Topic 1

他の職種同士が理解を深める、サブリーダー&サポーター制度。

鵜飼リハビリテーション病院のチーム医療を語る上で欠かせないのが、同院独自の「サブリーダー&サポーター制度」である。

サブリーダーは、担当チームの中で、担当する患者さんの入院から退院までのチームマネジメントを行う役割。他の職種を理解しながら、患者さんを包括的に評価しつつ、



予後予測や退院後の生活を考えていく推進力となる。入職2年目以上の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師のなかから、いずれか一人がサブリーダーに選出される。サポーターは文字通り、サブリーダーを支え、チームがうまく運営されるように導く役割で、前4職種の管理職クラスのスタッフが担当。同じ職種がサブリーダー・サポーターになることもあるが、違う職種同士が担当し、互いにフォローし合うこともある。

この制度を取り入れてから、「多職種連携がグッと強まりました」と猪川は話す。「特にサブリーダーとサポーターが違う職種の場合、お互いに相手の職種はどんな考えなのかを理解しながら、フォローし合っていくことになります。理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師が自分の専門領域で物事を考えるのではなく、相互に理解を深めることで、全員が患者さんの全体像を描けるようになり、人材教育の側面からも効果を上げています」。

Topic 2

職種横断のワーキンググループと、病棟横断のリーダー研修。

鵜飼リハビリテーションでは、いくつかの課題に対し、ワーキンググループを立ち上げ、解決策を練っている。本文でも述べたように、<認知症に対する対応力強化>と<5S(整理・整頓・清掃・清潔・しつけ)活動の取り組み>など、常に複数の取り組みが同時進行している。そこで特筆すべきは、ワーキンググループが、部署単位ではなく、職種横断で行われることだ。たとえば、認知症ワーキンググループでは、看護師、介護士のほか、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が参加。ロールプレイなどを通じて、認知症患者さんへの対応スキルの向上を図っている。

また、同院には3~5階の病棟があるが、従来、病棟間の交流は少なかった。そこで、3つの病棟の管理職クラスが集まる研修も行っている。それが、各病棟の看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が年に一

度集まる「リーダー研修」である。ここでは、病棟ごとに課題を発表し、お互いに意見交換することで、自分たちの病棟の課題を違う角度から見つめ、改善に繋げている。

職種や組織に横軸を通すことにより、同院はさらに風通しの良い風土を育み、チーム医療の質の向上を図っていく方針である。



Support Party!

鵜飼病院

地域に密着した病院として、患者さん・ご家族を支えます。

当院は、地域に密着した病院として近隣の病院や診療所と連携を取り、患者さんにとってより快適な入院診療・外来診療を提供できるよう努めています。急に体調が悪くなられた方や、救急車の受け入れにも対応しており、整形外科手術も行っています。

また、患者さん、ご家族の「自宅で生活を」という気持ちにお応えできるよう、リハビリテーションにも力を入れています。法人内外の居宅介護支援事業所や訪問看護ステーション等の介護保険サービス事業所と協力し、患者さんのご自宅での生活を支えます。



施設概要

リハビリテーションを中心に医療・福祉活動を展開しています。最先端設備と人に優しい環境を整え、患者さん一人ひとりを支えます。

診療科目：内科・神経内科・外科・消化器外科・整形外科・リハビリテーション科・放射線科

病床数：120床（一般病床30、地域包括ケア病床30、療養型病床60）

外来受付時間

月～金曜日 9:00～12:00 / 15:30～18:00

土曜日 9:00～12:00

休診日 日・祝

※在宅医療サービス、介護保険サービスも行っています。

鵜飼リハビリテーション病院

利用者さんの状態に合わせ、専門スタッフがリハビリや運動を実施します。



介護保険で行う通所リハビリテーション施設（デイケア）で、1時間30分の短時間型通所リハビリを提供しています。病院を退院した後、安心してご自宅での生活が送れるよう、専門スタッフ（理学療法士）が利用者さんの状態やニーズに合わせ、個別リハビリ（20～40分）や機械を使つての運動（40～50分）を実施します。

また、平成24年から、要介護者の方に限りお宅への訪問を始めました。実際の生活現場で情報収集を行うことで、解決が必要な課題を明確にし、より充実したリハビリを提供できるよう、スタッフ一丸となりサポートしています。

施設概要

利用者さんの状態に合わせ、20～40分の個別訓練と1時間程度の自主訓練で体力や基本動作能力の維持・向上をはかります。

対象：要介護・要支援認定の方

ご利用日：月・木・火・金・水・土（祝祭日を含む）

ご利用時間：午前 9:00～10:30 / 10:30～12:00
午後 13:00～14:30 / 14:30～16:00

サービス内容

- 筋力増強訓練や関節運動など
- 食事・排泄・更衣・入浴など日常生活動作
- 住宅環境の整備
- ホームプログラムの指導 など

※食事・入浴・送迎はありません。

通所リハビリ ウカイ

■通所リハビリテーション（1～2時間）・（3～4時間）

病院でのリハビリと同等のリハビリの提供に努めています。

介護保険で行う通所リハビリテーション施設（デイケア）です。利用者さんの状態やニーズに合わせ、医師やリハビリ専門スタッフがサービスを提供します。理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を配置し、病院でのリハビリ（医療保険）が終了となった場合でも同等のリハビリを提供できるよう努めています。

日常生活での動作獲得やコミュニケーション能力の向上等をめざし、身体機能や筋力の維持・向上がはかれるようプログラムを立案。個別リハビリ、機器での筋力強化やマッサージ、物理療法の低周波やホットパック等を行います。



施設概要

体力や基本動作能力の向上をはかりたい方を対象に、20～40分の個別訓練と1～3時間程度の自主訓練を行います。

対象：要介護・要支援認定の方

ご利用日：月～金曜日（祝祭日、年末年始を除く）

ご利用時間：午前 9:00～12:30
午後 13:30～17:00

サービス内容

○3つのコースと利用者に応じた個別リハビリテーション

○健康状態の確認（メディカルチェック） など

※食事・入浴・送迎はありません。

老人保健施設 第1若宮

■通所リハビリテーション（6～8時間）

利用者さんの笑顔が職員の励みです。



第1若宮では、年間を通して、節分や夏祭りなど季節に合わせた行事のほか、お花見や遠足などの外出行事を実施しています。

行事では、機能訓練や認知症の進行予防の援助も取り入れながら、利用者さんが、ご自分の能力に合わせて楽しんで参加していただけるよう配慮しています。

利用者さんが行事で見せてくださる笑顔が、職員の励みになっています。これからも、一人でも多くの利用者さんに、楽しんで参加していただけるような行事を企画していきます。

施設概要

介護を必要とする方を対象に、心身機能の維持・向上のためのリハビリを提供するとともに、入浴・食事・送迎サービス等も行います。

対象：中村区にお住まいの要介護認定の方
ご利用日：月～土曜日（祝祭日、年末年始を除く）

ご利用時間：9:50～16:10

サービス内容

- 理学療法士、作業療法士によるリハビリテーション
- 日常生活の援助（健康状態の確認、入浴・食事の介助等）
- 在宅生活における各種相談

大門訪問看護ステーション

短期間の利用も可能。退院後の不安を取り除きます。

「退院後すぐに体調が悪くならないだろうか」「自宅でどんな運動をすればいいのだろうか」「トイレやお風呂の介助がうまくできるだろうか」など、退院後の不安はどなたもお持ちだと思います。

当ステーションでは、退院前のリハビリ見学等を通して入院スタッフからの情報収集を実施しており、退院後、看護師やリハビリスタッフ（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）が週1～2回程度訪問して、ご本人の状態や環境に合わせた指導・援助をしています。退院後から生活が落ち着くまでの短期間利用も可能です。



施設概要

看護師、リハビリスタッフがご自宅に訪問し、利用者さんやご家族が安全・安心に暮らせるよう、在宅生活を支援します。

営業日時：月～金曜日 9:00～18:00（祝祭日、年末年始を除く）

サービス提供地域：中村区・西区・中川区

サービス内容

- 健康状態・病状観察
- 日常生活の支援
- 医療処置・カテーテル管理支援
- 在宅リハビリテーション
- 看護・介護・住宅改修・福祉用具の助言、相談 など

※ご利用にあたっては医師の指示書が必要です。ステーションにお問い合わせいただくか、ケアマネージャーにご相談ください。※看護師の24時間対応。